



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一〇四号）

清明 せいめい

四月五日



西行谷

桜の季節になると思い浮かぶのが、平安時代末期の歌人、西行法師です。願はくは花の下にて春死なん

そのきさらぎの望月もちづきのころ

『山家集』

願うことならば、満開の桜の下で死にたいものだ、如月ごとつきの満月の頃に、この歌の通りに、桜の満開の頃に生涯を閉じた西行。当代一流の歌詠み、西行が伊勢に移り住んだのは、治承四（一一八〇）年から文治二（一一八六）年の足かけ七年と考えられています。二見町の安養寺あんようじに草庵を結んだとされていますが、内宮前にも西行谷と呼ばれる地があります。西行谷だという古写真には、庵でくつろぐ男性の姿が映っています。

西行谷へ、先日、地元の方たちに連れて行っていただく機会がありました。県営陸上競技場の南隅に、伊勢市教育委員会の看板が立っています。その看板から溝を越えて、コンクリートの防水堤をよじ登り、急斜面を行ったところでした。おそらく伊勢志摩スカイラインが開通する頃に、このあたりは景色が一変したに違いありません。谷は荒れ果てていて、谷底にはおそらく西行谷と記された石柱でしょうか、無残に折れてころがっていました。石の橋は架かるものの、かつての道筋はもうわからないとのことでした。

しかし、滝は残っていました。高さは三メートルほどでしょうか。大きな青い岩肌を水が流れ落ち、下には小さな滝つぼもあります。宇治の町からなら、散歩がてらに来られる景勝地だったことが伺えます。惜しむらくは、桜の木が見当たらないことでした。

文 千種清美

